

まるりん通信



発行 公益財団法人屋久島環境文化財団 電話 0997-42-2911

～「7000年の森」へのご案内～

屋久島環境文化研修センターの周りに「7000年の森」という愛称の森があります。もともとスギの人工林であった森の一部を照葉樹の森へと復元しました。森の中は、約1kmの遊歩道が整備されており、また、標高160～200mに位置することから、ヘゴをはじめとする亜熱帯の植物を観察することができます。植物の解説プレートも多数設置していますので、ご家族、お友達などの少人数や、お一人でも楽しく散策いただけると思います。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の終了に伴い、



外出自粛の段階的緩和の目安も発表されています。「新しい生活様式」に基づく行動に気を付けながら、さわやかな光を浴び、心地よい風を感じ、鳥の声や小川の流りに耳を傾けて、大自然に包まれるひと時を過ごしてみませんか。



財団活動報告

【5min→0ミッション】(ごみゼロみっしょん)

昨年度から研修センターでは、「5min→0ミッション」という取り組みを行っています。これは活動や調査のときに5分ゴミを拾って、少しでも地球のために時間を使っていこうというものです。

5月は財団の研修の中で、春田浜と塚崎海岸にてゴミ拾いを行いました。



◆子どもの入館料無料◆

文化村センターは、子ども達が屋久島の自然、歴史、文化などに触れ、郷土についての学びを深め、ふるさとを愛する心を育むために、土・日・祝日の入館料が無料となっています。

対象者：小・中・高校生（18歳以下）

※ 県内在住者に限られます。

その他：入場時に生徒手帳・健康保険証等で確認させていただきます。



休館日

- 村センター 6/15(月)、6/22(月)、6/29(月)、7/6(月)、7/13(月)
- 研修センター 6/15(月)、6/22(月)、6/29(月)、7/6(月)、7/13(月)

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、上記以外も休館する場合があります。当財団ホームページ等をご確認ください。



インストラクターだより

「気候変動と新型コロナ」アフターコロナの持続可能な暮らしを考える

福元豪士（やっくん）

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として定めた「SDGs（持続可能な開発目標）」の目標13では、「気候変動に具体的な対策を」打つことを明示されるほど気候変動が深刻化しています。

気候変動と言えば、2019年国連本部で開かれた「気候行動サミット」で、地球温暖化対策を訴えたスウェーデンのグレタ・トゥンベリさん（当時16歳）の各国の首脳らを前に怒りで声を震わせる演説が記憶に新しいところです。気候変動とは、数十年間という期間における大気の状態となる気候が移り変わることを意味する言葉です。気候変動は、多くの人類に影響を与える深刻な問題です。気候が変動すれば、これまで野菜が栽培されていた地域でその野菜が育てられなくなったり、海流が変化して、特定の地域で魚が採れなくなったり、台風などが多く発生したり、異常気象が発生したりするようになります。

現在、世界中で猛威をふるい、私たち人類を終わりの見えない恐怖と不安に陥（おと）れている、新型コロナウイルス。経済活動の制限が余儀なくされている中、コロナの感染拡大により中国やインドを中心に世界中で工場の稼働がストップしたほか、世界中の航空便数も交通量も激減した結果、世界のCO2排出量は大きく減少しました。そんな中で、大気汚染が大きく改善され、中国はもちろん、インド北部では数十年ぶりにヒマラヤ山脈の眺望が見えたというニュースがありました。このニュースからあなたは何を感じますか？

最近では、「ウィズコロナ（新型コロナウイルスと共生する社会や世界）」そして「アフターコロナ（新型コロナ感染症が落ち着いた社会や世界）」という考え方が広がり始めました。持続可能な社会とは「地球の恵みを、次世代に手わたし続ける暮らし」です。このコロナの危機は、前と同じ経済や社会に戻るのではなく、より良い仕組みに転換するきっかけにしていくこと。これまでの「当たり前」と、これからの「当たり前」。現在のコロナ感染症対策期間中に、私たちのアフターコロナの暮らしの在り方を考えてみませんか？



屋久島を想う

研修センター 小泉 沙織

色々な偶然が重なって、今年の2月、研修センターの事業に参加すべく、初めて屋久島に足を踏み入れました。誰も知らない土地で、初対面の方々と、10日間の共同生活。不安でいっぱいだった私を、研修センターのスタッフや島民のみなさんがとても暖かく迎えてくださり、また、世界に誇る大自然が優しく包み込んでくれたことで、毎日がとても楽しく、「屋久島全体が大きな家族みたいで居心地がいいなあ」「ずっとここにいたいなあ」と感じたのを今でも鮮明に覚えています。それからの1年間、「屋久島をもっと知りたい」という一心で、2か月に1度のペースで屋久島に通っていました。そして今、私は屋久島にいます。正直、夢を見ているかのように、自分が屋久島に住んでいるという実感がわきません。

これからは、インタープリター（自然案内人）として、屋久島に住む島民として、より多くの人に屋久島の素晴らしさを伝えていけたらと思います。



～「まるりん」の仲間たちのご紹介～

まるりんにはたくさんの仲間がいます。その一部をご紹介します。

今回紹介するのは、「えびちゃん」・「ぼんちゃん」・「しかお」・「きっきー」・「しじみん」・「とびくん」・「あかつこ」・「しゃくりん」・「やくじい」・「さくらん」・「うみちゃん」・「しゃらひめ」です。

皆さん、どれが誰だかわかりますか？



答え：①ぼんちゃん・②しじみん・③とびくん・④さくらん・⑤きっきー・⑥やくじい・⑦えびちゃん・⑧しゃくりん・⑨しゃらひめ・⑩うみちゃん・⑪あかつこ・⑫しかお